

環境活動レポート

【レポートの対象期間：2017年4月～2018年3月】

株式会社 三和

《ご挨拶》

株式会社三和は、昭和44年9月1日に配電盤製造業者として東富電機株式会社を発足。昭和40年7月20日に板金業者の三和工業と合併して現社名に商号変更し、今日に至っております。高度な技術集団を目指し日夜努力中です。平成22年4月から製造本部統合を行い、無駄のない一貫生産体制の強化と迅速なる良品の提供が出来る体質改善を図り、また、平成23年度より、工学博士を中心に新製品開発重視の経営方針へと転換し、お客様方のニーズに即応出来る態勢を整えました。

企業の規模も拡大の方向にあり、変革は環境に与える影響が大きい事を受け止め、次項の環境方針を基に環境活動を展開し、地球環境に優しい企業として環境への配慮も企業活動の大きな役割として捉え新たな一歩を歩み出しました。

以下、「環境活動レポート」としての取り組みをまとめましたので、私達の取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘を頂き次の環境活動に活かして生きたいと存じます。

株式会社 三和
代表取締役社長
大木 誠

《目次》

1. 環境方針	P-1
2. 事業活動の規模	P-2
3. EA21推進体制	P-3
4. 環境目標とその実績	P-4
5. 環境活動の取組計画と評価	P-5
6. 環境関連法規制の遵守	P-6
7. 代表者による全体の評価と見直し	P-6

1. 環境方針

〔基本理念〕

私たちは、かけがえのない地球を守ることが、人類共通の最重要課題のひとつと認識し、地球環境に配慮した事業活動に努めます。

〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取り組みます。

1. 当社の主力事業である、設計・配線・組立までの各領域において、
技術的・経済的な事情を考慮の上、環境に与える影響を低減するとともに、循環型社会の実現に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用化石燃料削減・廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再使用の向上に努めます。
 - ③事業活動において有害物質が入っている部品、ネジ、ハンダ、メッキ、塗装品などは一切排除する。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取り組みます。
策定した目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直します。
3. 事業活動において、環境に関わる法律・規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針は、全社員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識の向上を図ります。
5. 環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

2015/7/24制定

株式会社 三和
代表取締役社長
大木 誠

2. 事業活動の規模

1. 事業所及び代表者名

株式会社 三和
代表取締役社長 大木 誠

2. 所在地

〒360-0231 埼玉県熊谷市飯塚362-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 大木 誠
環境管理責任者 : 取締役 工場長 竹内 和広
担当 : E A 2 1 事務局 吉野 亮
TEL : 048-567-3030
FAX : 048-567-3031

4. 対象範囲

株式会社 三和 全組織及び全活動

5. 事業の内容

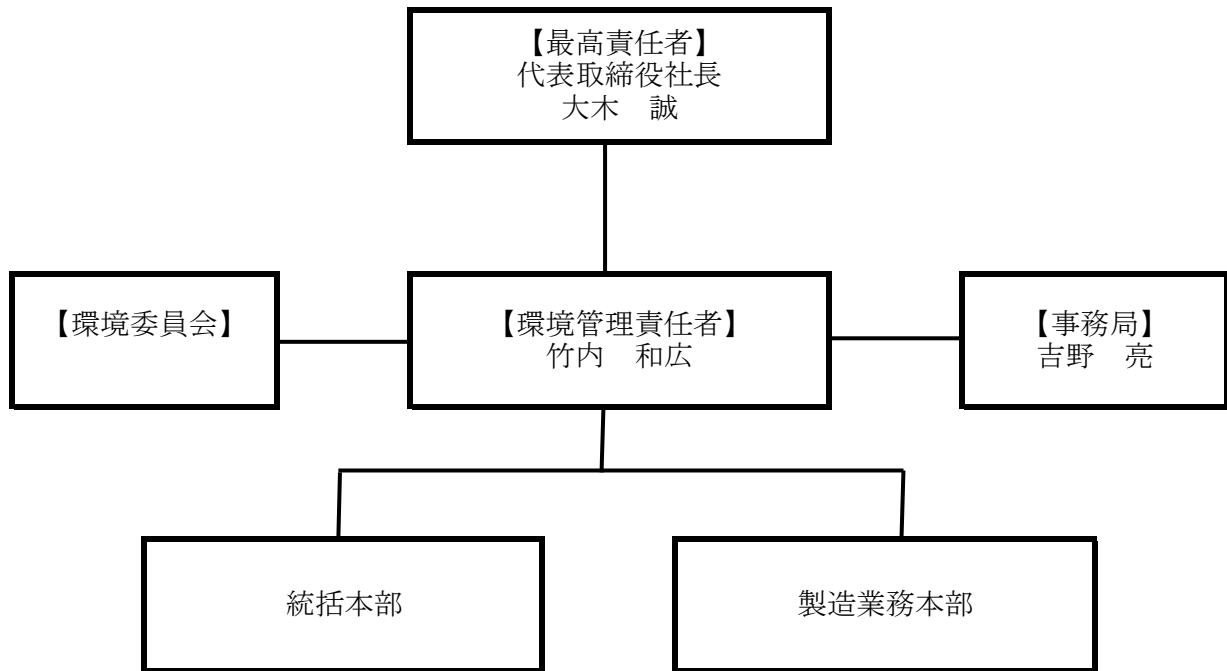
制御盤・配電盤の配線組立 電機製品の開発、設計、製造
その他金属製品の開発、設計、製造

6. 事業規模

活動規模	単位	2016年	2017年
主要製品生産量	千万円	29	26
従業員数	人	35	34
延べ床面積	m ²	1,035	1,035

3. エコアクション21 推進組織図

(2015年7月24日 作成)
2017年5月30日変更



職名	役割
最高責任者	<p>【代表取締役社長 大木 誠】</p> <p>①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。</p> <p>②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する。</p> <p>③環境方針を制定する。</p> <p>④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。</p>
環境管理責任者	<p>【竹内 和広】</p> <p>①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。</p> <p>②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。</p>
事務局	<p>【吉野 亮】</p> <p>①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。</p>
環境委員会	<p>環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。</p>

4. 環境目標とその実績

当社に於ける2017/4/1～2018/3/31の環境負荷実績を把握し、2017年～2019年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 環境目標とその実績

*購入電力の排出係数は、0.525〔平成24年度実績・平成25年12月24日公表〕を使用しています。

*2016年の実績は、2016年4月～2017年3月のデータです。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (3年後)
	2016	2017年				2019
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①売上高100万円当たりの二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂ /百万円)	294.03	2016年実績に対して1%削減	285.19	319.90	目標に対して12.18%増加となった	2016年実績に対して2%削減
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	12.48	2016年実績に対して1%削減	12.11	12.93	目標に対して6.8%増加となった	2016年実績に対して2%削減
③売り上げ100万円当り水資源投入量の削減(m ³)	0.755	2016年実績に対して1%削減	0.732	0.923	目標に対して14.53%増加となった	2016年実績に対して2%削減
④化学物質取扱及び管理の徹底	—	—	—	取扱量の把握	社内に無い	—
⑤本業に関する目標	—	不良率0.1%		0.1%以下だった	守っている	

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2016	2017
①二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)	85269.4	83177.7
②廃棄物排出量(kg)	3620	3362.2
③水資源投入量(m ³)	219	240

5. 環境活動計画の取組みと評価

*2017年4月～2017年9月の活動の取組みを評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 ①空調温度適正化・表示 ②照明不要時のOFFの推進 ③エアコン清掃の実施 ④エコドライブ推進 ⑤社用車の点検・整備	総排出量は若干下回ったが売上高が下がった為、売上百万円当たりでは目標未達成。電力が多かったのは夏場のエアコン使用、軽油が多かったのは春先に現地作業が多く移動にて使用の為。
	次年度の取組内容
	更なる削減ができるように社内努力の継続をする。
2. 廃棄物排出量の削減 ①分別ルールの徹底 ②廃棄物置場の整備 ③産廃業者との契約書の確認	総排出量は若干下回ったが売上高が下がった為、売上百万円当たりでは目標未達成。
	次年度の取組内容
	引き続き分別ルールの徹底を行う。
3. 水資源投入量の削減 ①毎月のメータの確認(漏水防止) ②節水表示(手洗い場・トイレ) ③トイレの節水	総排出量、売上百万円当たり共に目標未達成。
	次年度の取組内容
	まずは目標達成のため1人1人に心がけるように周知を継続する。
4. 化学物質取扱及び管理の徹底 ①取扱商品の把握 ②購入量の把握 ③取扱商品一覧表の作成	当社では化学物質の使用はない。
	次年度の取組内容
	化学物質の使用がないかを管理する。
5. 本業に関する目標 ①不良率の削減 ②生産性向上の努力 ③納期厳守	朝礼での声かけ、品質保証会議、対策委員会 工程会議、講習会の開催
	次年度の取組内容
	引き続き継続して取り組む

6. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・保存及び交 付状況報告	遵法
フロン排出抑制法	3か月に1回簡易点検実施	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2018年2月23日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価と見直し

上半期の集計をもって下半期は特に、CO2、使用水量の削減に取り組み、通年でそれぞれが削減できる様、引き続き社内周知と活動の継続を指示した。通年では、水使用量以外は2016年度に比べ削減できた。引き続き電力使用量の削減が出来る様LED照明の利用を検討する。